



釧路湿原森林ふれあい推進センター

当センターは、国有林を主な活動区域として、森林環境教育に携わる教育関係者、ボランティア団体、地域住民、企業、行政機関などの活動支援や技術指導の業務を行っています。

今回は、気象害により木がまばらになったり無くなったりした被害跡地の森林再生を行っている川上郡標茶町^{らいべつ}雷別の自然再生事業地において、今秋に実施した取組の中から2つご紹介します。

【JICA（国際協力機構）研修の受入】

この研修は、地元住民の参加を得て湿地の適切な利用を促進する行動計画を実行し、地域開発、環境、生物多様性保全に貢献することが出来るようにする目的で行われ、当センターが釧路湿原源流部で自然再生に取り組んでいることから、JICA中央アジア広域研修の1コマとして受入依頼がありました。当日は、自然再生事業地を訪れたカザフスタン、ウズベキスタン、タジキスタンの湿地保護に従事する政府関係者（研修員）の方々^らに当事業の取組内容について説明を行いました。



JICA 研修員による自然再生事業地見学の様子

研修員からは、取組に対し、熱心に質問があり、また、「地域住民やボランティア団体などの協働の取り組みは興味深く参考になった。自分の国でもできれば実施してみたい。」など、積極的に意見や考え方などの発言がありました。

【環境に配慮した施業（森林再生）の推進】

当センターでは、地域の方々と協働し、前述の被害跡地に郷土樹種の広葉樹を植えることと併せて、エゾシカや野ウサギの食害から植栽木を保護するため、筒状のプラスチック製保護管（ツリーシェルター）を設置しています。この保護管は食害対策として有効ですが、自然分解しないため、環境負荷の低減を目指して、微生物によって分解され自然に帰る素材で作られた生分解性保護管の試験設置を今年度から行っています。今後、耐久性などの経過観察を行い、当事業地への導入について検討していきます。また、プラスチック製保護管については、再利用の可能性を探るなど、効率的な使用方法の検討も行っています。



雷別ドングリ倶楽部による生分解性保護管設置の様子

雷別ドングリ倶楽部は、当センターと協働で森林再生に取り組んでいるボランティアの集まりです。秋の活動には15名が参加し、広葉樹植栽と生分解性保護管設置に取り組みました。

【おわりに】

当センターでは、この他にも様々な業務に取り組んでいます。活動報告は、随時ホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

森林ふれあい 釧路

検索